

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2011.6. 22

No.409



平成 23 年夏のボーナス調査

—レポートの概要—

- 平成 23 年夏のボーナス受給見込額は、平均で昨年夏を 1 万 1 千円下回る 33 万 3 千円となった。一方、ボーナスの平均希望額は 48 万 7 千円となり、受給見込額との間に 15 万 4 千円の乖離を生じた。なお、今夏のボーナスの伸び(見込み)は、昨年夏に比べ、「良くなる」が幾分減少、「悪くなる」は増加した。この結果、期待指数は昨年夏に比べ 4.5 ポイント低下した。
- ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 39.6%、「貯蓄」割合が 44.7%、「返済」割合が 15.7%となり、昨年夏に比べ「消費」割合、「貯蓄」割合が上昇し、「返済」割合は低下した。
「貯蓄」の目的については、昨年夏同様、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「老後の備え」、「教育」がこれに次いだ。
- 最近の暮らし向き調査では、「良くなった」とする割合が横バイ、「悪くなった」とする割合は 2.3 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 22 年冬に比べ 1.1 ポイント上昇し 36.8 となった。

1. 平成 23 年夏のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

——昨年夏を 1 万 1 千円下回る、平均 33 万 3 千円——

県内給与所得者が予想する今夏のボーナス受給見込額は、全体の平均で 33 万 3 千円となり、回答者の昨年夏の受給実績(平均 34 万 4 千円)に比べ 3.2%、1 万 1 千円下回った。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が多かったのは 50 代男性の 52 万 1 千円で、次いで 40 代男性の 42 万 7 千円、50 代女性の 40 万円などの順となった。

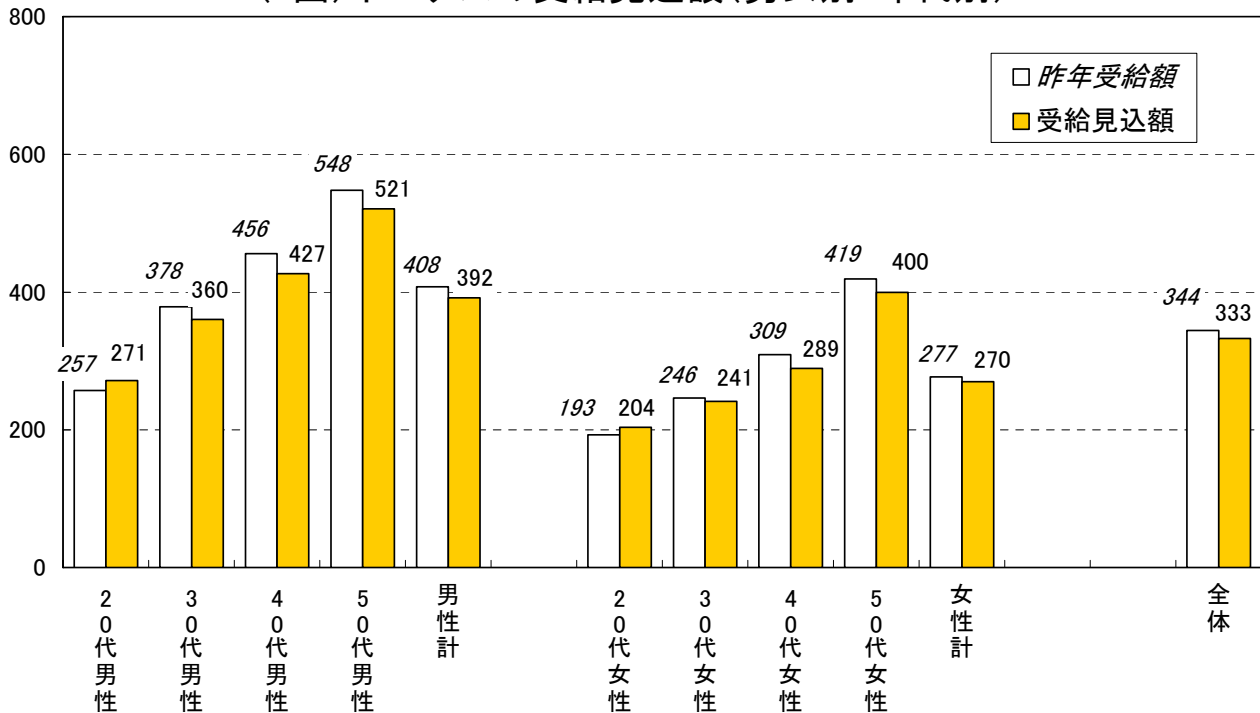
男女別の平均受給見込額を比較すると、男性が 39 万 2 千円、女性は 27 万円と、男性が女性を 12 万 2 千円上回った。

年代別に今夏の受給見込額と昨年夏の受給実績との開きをみると、男女とも 30 代以降で見込額が受給実績を下回るとしている。その差額は 40 代男性が 2 万 9 千円と最も大きく、次いで 50 代男性が 2 万 7 千円、40 代女性が 2 万円、50 代女性が 1 万 9 千円、30 代男性が 1 万 8 千円、30 代女性が 5 千円となった。一方、20 代は男性が 1 万 4 千円、女性は 1 万 1 千円それぞれ上回ると見込んでいる。

(以上、1 図参照)

(千円)

(1図) ボーナスの受給見込額(男女別・年代別)

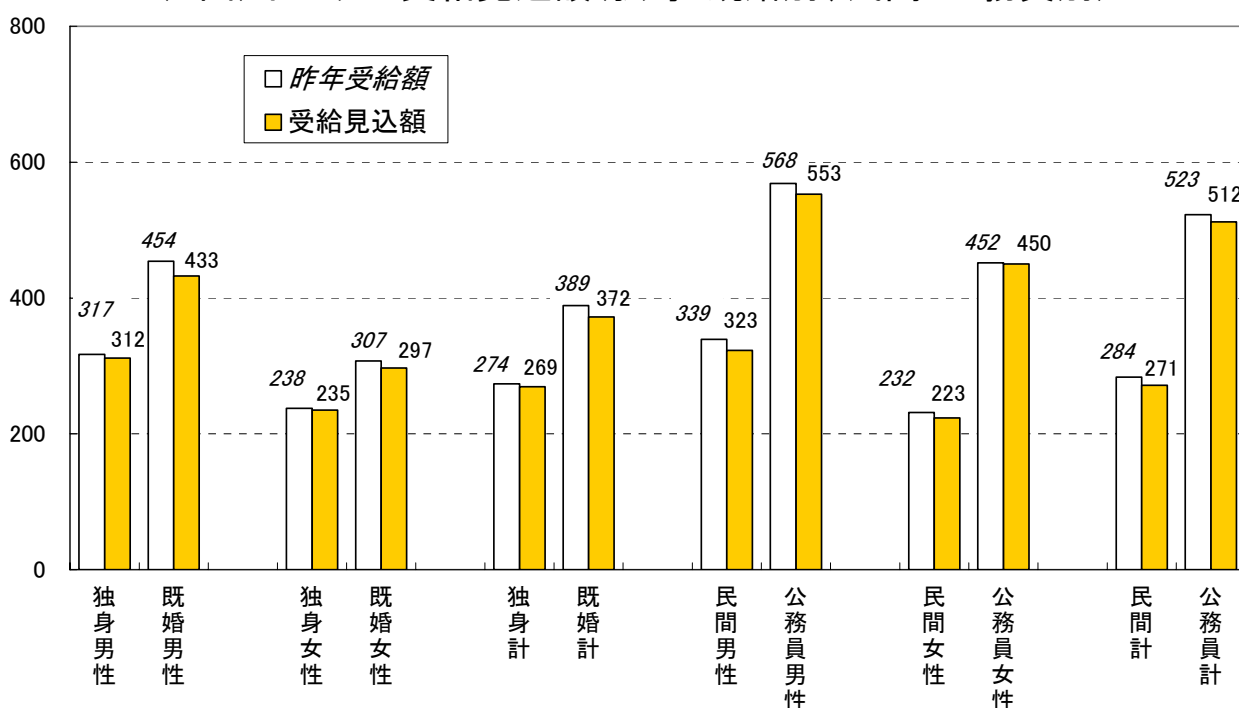


次に、平均受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が26万9千円、既婚者が37万2千円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が5千円、既婚者が1万7千円それぞれ下回ると見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を5千円、女性が3千円それぞれ下回った。また、既婚者は男性が2万1千円、女性が1万円下回った。

また、民間・公務員別でみると、民間が27万1千円、公務員が51万2千円となった。昨年夏の受給実績と比べると民間が1万3千円、公務員は1万1千円それぞれ下回ると見込んでいる。男性は民間が1万6千円、公務員が1万5千円それぞれ下回った。また、女性は民間が9千円、公務員が2千円それぞれ下回った。

(以上、2図参照)

(千円) (2図) ボーナス受給見込額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(2) ボーナスの希望額

——ボーナス希望額、平均48万7千円——

今夏のボーナス希望額は全体の平均で48万7千円となり、受給見込額33万3千円との間に15万4千円の乖離を生じた。

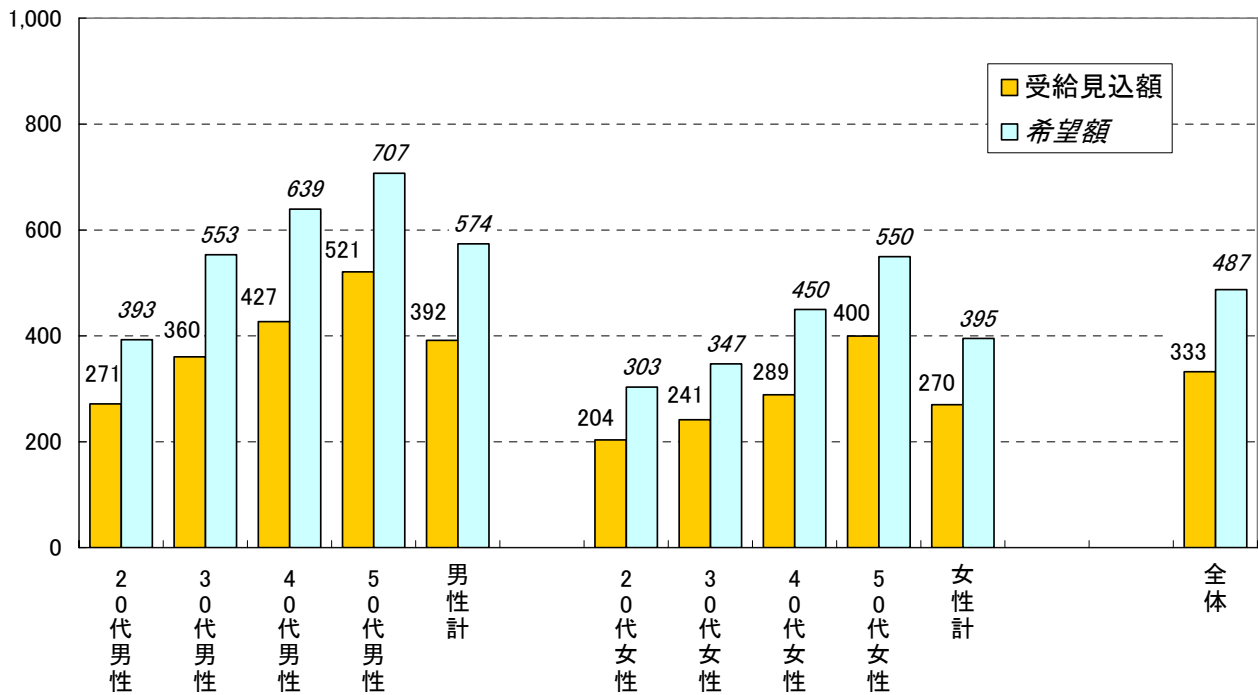
平均希望額を男女別・年代別にみると、最も多かったのは50代男性の70万7千円で、次いで40代男性の63万9千円、30代男性の55万3千円、50代女性の55万円などの順となった。希望額と受給見込額との乖離幅をみると、40代男性が21万2

千円で最も大きく、次いで30代男性の19万3千円、50代男性の18万6千円などとなり、各年代とも男性の方が女性に比べて希望額と見込額との開きが大きかった。また、独身・既婚別にみると、男女とも既婚者は独身者よりも開きが大きく、既婚男性は20万8千円の乖離幅となった。民間・公務員別では公務員の乖離幅が幾分大きかった。

(以上、3、4図参照)

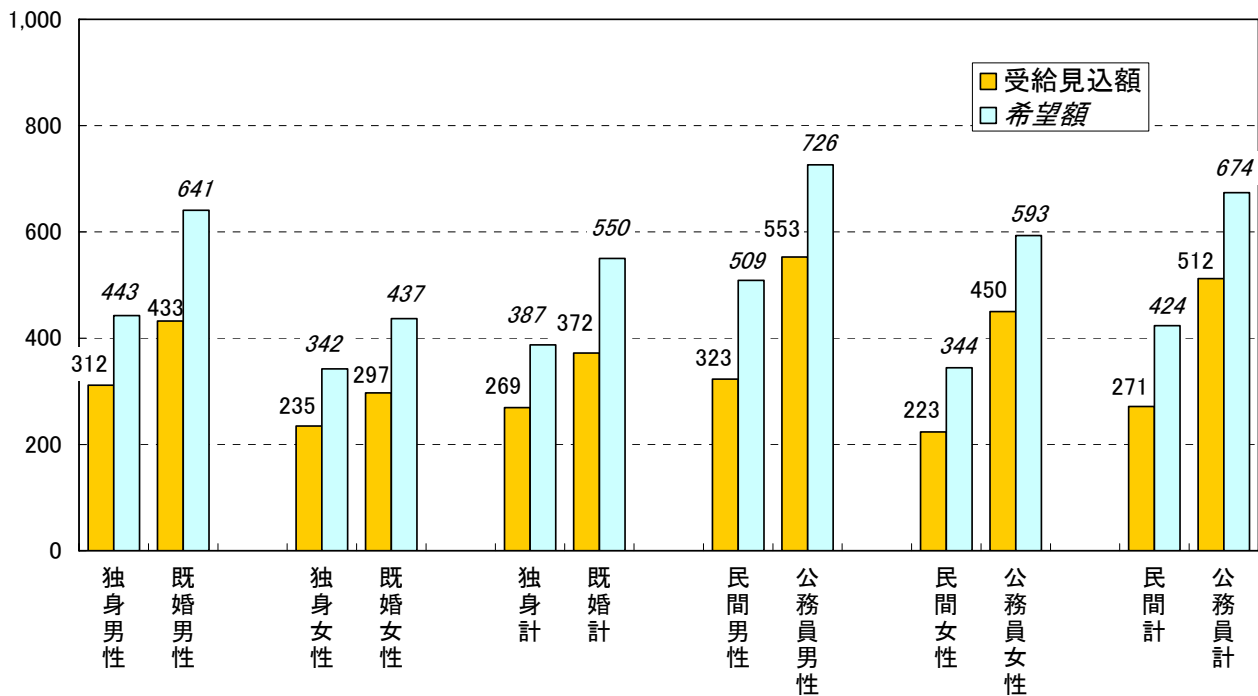
(千円)

(3図) ボーナス希望額(男女別・年代別)



(千円)

(4図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて

——期待指数、昨年夏に比べ 4.5 ポイント低下——

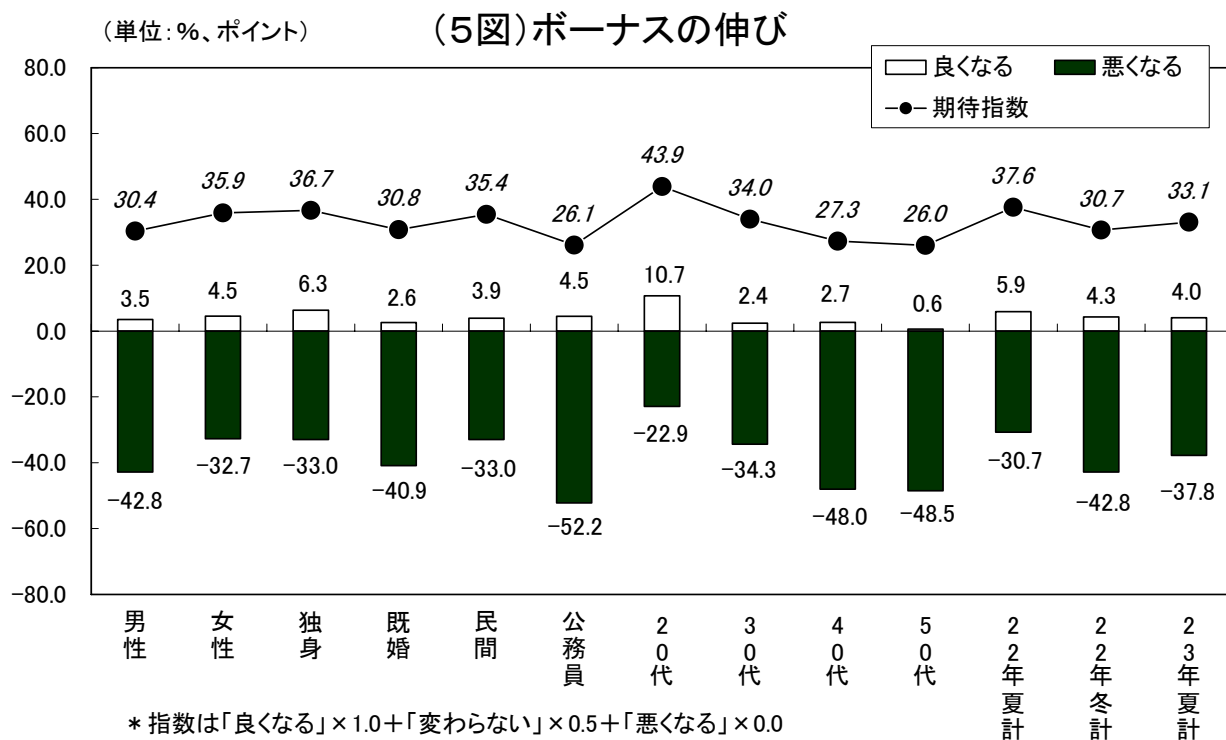
今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は全体の 4.0%、「変わらない」が 58.2%、「悪くなる」が 37.8%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5 図、注記参照)は 33.1 となった。

昨年夏に比べると「良くなる」が減少、「悪くなる」は増加し、期待指数は 4.5 ポイント低下した。なお、22 年冬と比べると、期待指数は 2.4 ポイント上昇したが、「良くなる」は 0.3 ポイント減少しており、厳しい状況に変わりがないことがうかがわれる。

属性別にみると、20 代は「良くなる」とする回答が 10.7%、「悪くなる」が 22.9%となり、期待指数は 43.9 と他の属性に比べ高かった。しかし、その他の属性では「良くなる」が 1 ケタ台にとどまったほか、「悪くなる」は 3 割を超え、期待指数はそれぞれ 40.0 を下回った。特に、公務員、40 代、50 代では「悪くなる」とする回答が約 5 割に達し、期待指数もそれぞれ 30.0 を下回った。

ボーナスの伸びについては、依然として中・高齢層を中心に厳しさが続いていることがうかがわれる。

(以上、5 図参照)



(4) ボーナスの使途計画

——「消費」、「貯蓄」割合が上昇、「返済」割合は低下——

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が 39.6%、「貯蓄」割合が 44.7%、「返済」割合が 15.7%となった。昨年夏に比べると、「消費」割合が 0.9 ポイント上昇、「貯蓄」割合が 1.0 ポイント上昇した。一方、「返済」割合は 1.9 ポイント低下した。

男女別にみると、男性は「返済」割合、女

性は「消費」、「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、「貯蓄」割合が高く、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では民間が「貯蓄」割合、公務員は「返済」割合が高く、「消費」割合はほぼ同じであった。

(以上、1 表参照)

(1表)ボーナスの使途計画

(単位:%)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	39.0	17.4	8.3	5.5	7.8	42.7	18.3	5.5	8.4	4.4
女性	40.3	18.7	9.4	4.8	7.4	46.8	12.9	3.0	5.2	4.7
独身者	43.0	18.8	9.4	7.3	7.5	45.5	11.5	5.2	1.7	4.6
既婚者	37.4	17.5	8.4	3.8	7.7	44.2	18.4	3.6	10.1	4.7
民間	39.7	18.6	9.0	5.2	6.9	45.7	14.6	4.3	5.8	4.5
公務員	39.4	16.5	8.3	5.2	9.4	42.0	18.6	4.2	9.7	4.7
23年夏計	39.6	18.0	8.8	5.2	7.6	44.7	15.7	4.2	6.9	4.6
22年夏計	38.7	16.2	8.0	5.7	8.8	43.7	17.6	4.5	8.4	4.7
21年夏計	37.4	16.4	7.2	5.5	8.3	42.0	20.6	5.9	7.8	6.9

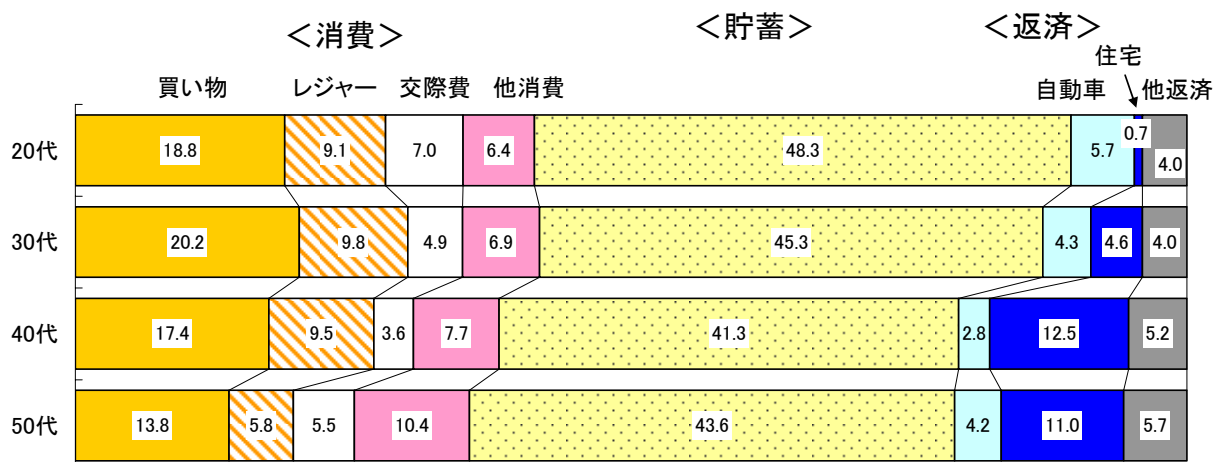
年代別にみると、「消費」割合は 20 代、30 代が 4 割を上回る一方で、50 代は 35.5%と比較的低い割合となった。「貯蓄」割合は各年代とも 4 割以上となり、20 代は 48.3%と 5 割近くを占めた。「返済」割合は 20 代が 10.4%と最も低く、年代が進むにつ

れて割合が高くなり、50 代は 20.9%となった。内訳をみると、20 代では自動車ローンの割合が高いのに対し、40 代、50 代では住宅ローンの返済割合が大きなウェイトを占めている。

(以上、6、図参照)

(6図)年代別ボーナスの使途計画

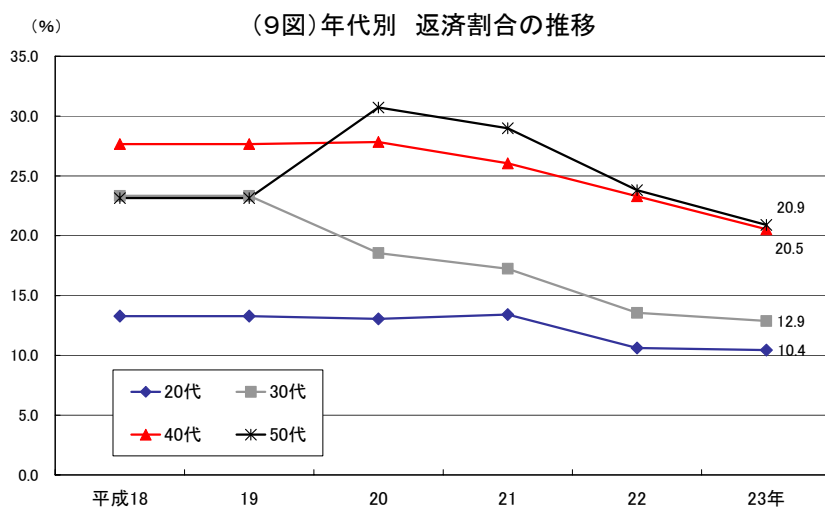
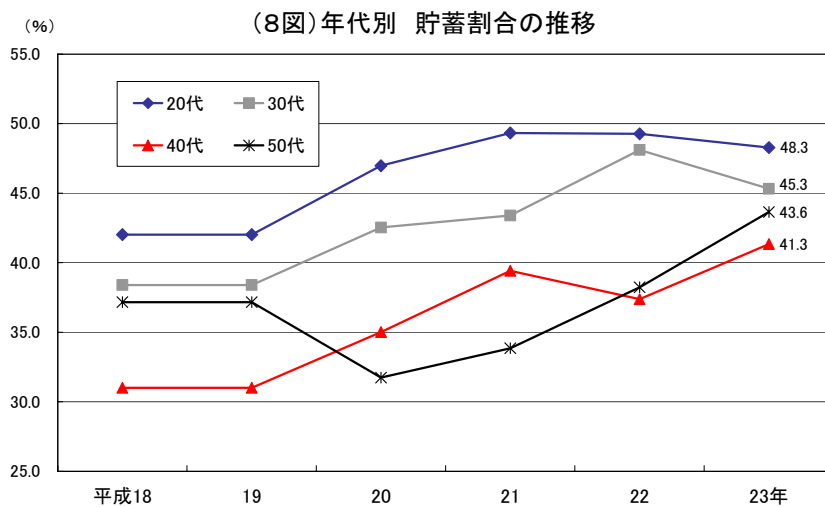
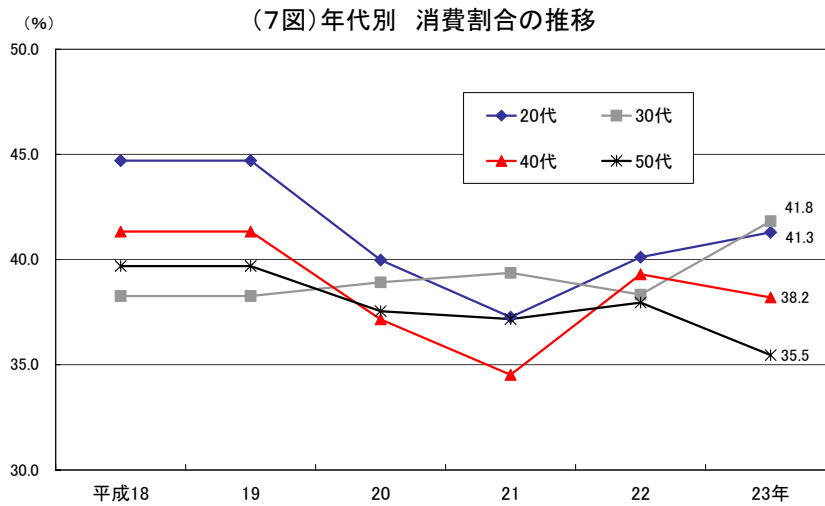
(単位:%)



夏のボーナスについてそれぞれの割合の推移をみると、「消費」割合は、20代、30代でこのところ回復傾向がみられる一方、50代はこのところ低下傾向にあり、年代によってバラツキがみられる。「貯蓄」割合は全体に増加傾向にあり、貯蓄志向が高まっ

ていることがうかがわれる。20代の割合が依然として高く、今回は特に40代、50代の増加が目立った。一方、「返済」割合はこのところ、全体に低下傾向がうかがわれる。

(以上、7、8、9図参照)



(5) 貯蓄の目的

——「貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位3位——

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が44.7%で最も高く、以下「老後の備え」(30.6%)、「教育」(28.3%)などと続いた。昨年夏と同様、この3項目が上位3位を占め、順位も同じであったが、いずれも昨年夏に比べ割合が低下し、「教育」は3.3ポイント低下した。このほかでは「結婚」が2.6ポイント、「住宅」が2.4ポイントそれぞれ上昇し、「旅行」は4.8ポイント低下した。

男女別にみると、男性は「教育」の割合が

「老後の備え」を上回ったほか、「住宅」、「耐久消費財」の割合も比較的高かった。一方、女性は「旅行」、「病気の備え」の割合が比較的高かった。また、独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が6割近くとなったほか、「旅行」、「老後の備え」、「結婚」の割合がほぼ同じ割合となった。一方、既婚者は「教育」の割合が1位となったほか、「老後の備え」「住宅」の高さも目立った。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的(複数回答)

(単位:%)

	男	性女	性	独	身既	婚	23年夏計	22年夏計	21年夏計
住 宅	16.7	10.7	8.8	17.1	13.9	11.5	13.9		
教 育	(2) 30.1	(3) 26.2	4.4	(1) 43.8	(3) 28.3	(3) 31.6	(2) 31.8		
結 婚	7.7	11.6	22.3	1.2	9.5	6.9	10.6		
旅 行	16.4	20.4	(2) 24.5	14.3	18.3	23.1	19.9		
耐久性消費財	15.3	10.4	15.0	11.7	13.0	11.6	11.9		
病気の備え	11.0	14.3	13.2	12.1	12.6	14.5	13.1		
老後の備え	(3) 28.5	(2) 32.9	(3) 22.7	(3) 35.7	(2) 30.6	(2) 32.3	(3) 24.1		
安心だから	(1) 44.7	(1) 44.8	(1) 56.8	(2) 36.9	(1) 44.7	(1) 45.5	(1) 44.9		

2. 最近の暮らし向き調査

——暮らし向き、依然として厳しさが続く——

まず、「今年の今頃と比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、「良くなった」が3.9%、「変わらない」が65.8%、「悪くなった」が30.3%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は22年冬に比べ1.1ポイント上昇し36.8となった。「良くなった」とする割合が横バイとなったものの、「悪くなった」とする割合は2.3ポイント減少し、暮らし向き指数は幾分上昇した。しかしながら、「変わらない」とする割合が6割以上を占めており、依然として暮らし向きの厳しさが続いていることがうかがわれる。

属性別にみると、「良くなった」とする割合は20代で10.1%となったものの、他の属性は1ケタ台にとどまり、50代ではゼロ回答となった。一方、「悪くなった」とする割合は、20代が16.1%と低かった一方で、40代、50代では4割を上回っており、年齢が進むにつれて厳しい見方が広がっている。

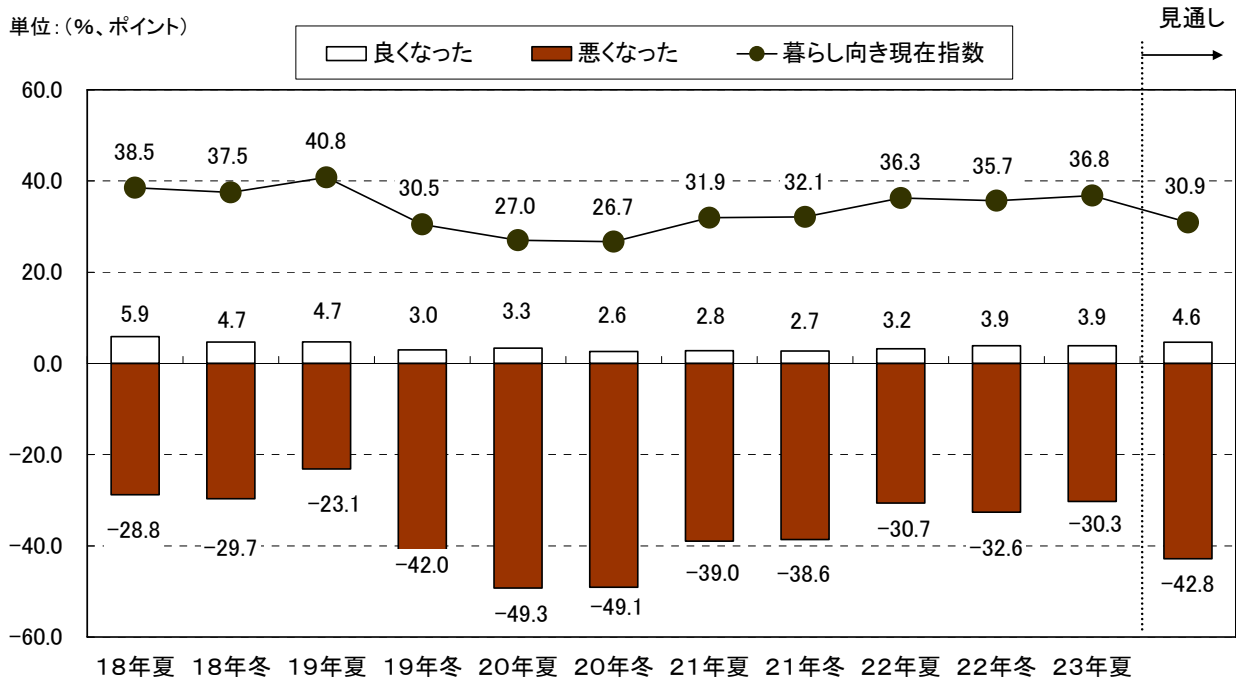
次に「1年後の暮らし向きはどうなると思いますか」との問いに対しては、「良くなる」が4.6%、「変わらない」が52.6%、「悪くなる」が42.8%となった。「良くなる」は全ての属性が1ケタ台にとどまったものの、既婚者、40代、50代などでは現在に比べ幾分増加

がみられ、全体では現在より 1.7 ポイント増加した。一方、「悪くなる」は全ての属性で増加し、悪化の見通しが全体に広がっている。公務員、40代、50代では5割を超え、全体では現在より 12.5 ポイント増と大幅に増加した。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を 5.9 ポイン

ト下回る 30.9 となり、先行きの暮らし向きについては、厳しさが増すという見方がうかがわれた。

(以上、10 図、3 表参照)

(10図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位：%)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	2.8	4.2	66.3	51.0	30.9	44.9	36.0	29.6
女性	4.9	5.1	65.4	54.1	29.7	40.8	37.6	32.2
独身	6.6	6.6	70.8	57.7	22.7	35.8	41.9	35.4
既婚	2.1	3.4	62.6	49.2	35.2	47.4	33.5	28.0
民間	3.9	5.2	66.8	56.6	29.3	38.2	37.3	33.5
公務員	3.9	3.1	62.9	40.2	33.2	56.8	35.4	23.1
20代	10.1	9.2	73.7	64.5	16.1	26.3	47.0	41.5
30代	3.5	3.2	71.0	58.4	25.5	38.4	39.0	32.4
40代	1.3	3.9	57.6	44.5	41.0	51.5	30.1	26.2
50代	0.0	2.4	57.4	37.3	42.6	60.4	28.7	21.0
全体	3.9	4.6	65.8	52.5	30.3	42.8	36.8	30.9

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

- 調査対象者 県内在住の男女給与所得者
- 調査時期 平成 23 年 5 月下旬～6 月上旬
- 配布・回収枚数 配布枚数 1,000 枚
回収枚数 928 枚 (回収率 92.8%)

回答者内訳

(単位:人、歳)

属性	男性	女性	合計
20 代	94 (25.9)	123 (25.6)	217 (25.7)
30 代	155 (34.7)	156 (35.0)	311 (34.8)
40 代	117 (43.7)	113 (43.4)	230 (43.6)
50 代	93 (54.9)	77 (54.9)	170 (54.9)
独 身	155 (32.4)	212 (32.3)	367 (32.3)
既 婚	304 (42.8)	257 (42.4)	561 (42.6)
民間企業	322 (38.0)	377 (37.5)	699 (37.7)
公務員	137 (42.3)	92 (39.1)	229 (41.0)
合 計	459 (39.3)	469 (37.8)	928 (38.5)

注:()内は平均年齢

※ 本件に関する照会先
財団法人 青森地域社会研究所
担当:野里和廣(TEL017-777-1511)